

テーマ展「子どもをめぐる美術—祈りから遊びまで—」展示作品リスト

番号	指定	名称	作者	数量	時代	所蔵
子どもをめぐる営み						
親の願い						
1		あまがつ しろえのはこ 天児および白絵箱		1式	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
2		あさぎじともえもんからくきもんようぶぎ 浅葱地巴紋唐草文様産着		1領	大正6年(1917)	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
3		しらがわた 白髪綿		1握	江戸時代 嘉永6年(1853)	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
4	重要文化財	わかかし こ うしな と き わか 和歌懐紙「子を失し時の和歌」	いいなおすけ 井伊直弼筆	1幅	江戸時代後期	彦根城博物館（彦根藩井伊家文書）
5		たちびな 立雛		1対	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
6		ごがつにんぎょう 五月人形		1式	江戸時代後期	彦根城博物館（個人寄贈資料）
7		むしやずはた 武者図旗		2流	明治時代～昭和時代初期	彦根城博物館（孕石備前家伝来資料）
8		しょうきず 鍾馗図	かのうえいかく 狩野永岳筆	1幅	江戸時代後期	彦根城博物館
9	県指定文化財	しゅうるしぬりほけこしとりきんまいどうぐそく 朱漆塗仏腰取三枚胴具足		1領	江戸時代前期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
遊びと学び						
10		げんじはっけいかのみ 源氏八景手鑑		1帖	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
11		いろえからこずしゅはい 色絵唐子図酒盃		1口	明治時代～大正時代	彦根城博物館（個人寄贈資料）
12		えいりげんじものがたり 絵入源氏物語		60冊の内1冊	江戸時代 承応3年(1654)刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
13		ふくろくじゅてんじょうすごろく 福祿寿天上双六	まんでいおうが 万亭応賀作 うたがわくによし 歌川国芳画	1枚	江戸時代後期	彦根城博物館（岡島家文書）
14		いせものがたりうた 伊勢物語歌かるた		1式	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
15		てらここうたいしきのとも 寺子小謡四季友		1冊	江戸時代 天保14年(1843)刊	彦根城博物館（北川文太家文書）
16		さんじしょ 三字書「事貴明」	いいなおゆき 井伊直達筆	1幅	江戸時代 慶応3年(1867)	個人（埋木舎大久保家伝来資料）
17	重要文化財	ひなどりず 雛鳥図	とくがわいえつな 徳川家綱筆	1枚	江戸時代 正保4年(1647)	彦根城博物館（彦根藩井伊家文書）
18	重要文化財	ほていず 布袋図	とくがわいえつな 徳川家綱筆	1枚	江戸時代 慶安2年(1649)	彦根城博物館（彦根藩井伊家文書）
子どもと芸能						
19		のうしょうぞく べにじかきじにはなまるもんようぬいはく 能装束 紅地垣地に花丸文様縫箔		1領	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
20		のうしょうぞく こうはくだんあまききもんようからおり 能装束 紅白段秋草文様唐織		1領	大正時代～昭和時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
子どもの造形						
聖なるこども						
21		のうめん どうじ 能面 童子	こだまみつまさ 児玉満昌作	1面	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
22		のうめん おおどうじ 能面 大童子	どうすいみつり 洞水満昆作	1面	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
23		ちごだいしぞう 稚児大師像		1幅	室町時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
唐子のすがた						
24		じゅうろうじんず せいおうぼず うち 寿老人図（寿老人・西玉母図の内）	かのうたんしん 狩野探信筆	2巻の内1巻	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
25		ことうやき いろえりんなせいざごら 湖東焼 色絵林和靖図小皿	かすい 可水作	5枚	江戸時代後期	個人
26		みつにんぎょうふたおき 三人形蓋置		1箇	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
27		ごしょにんぎょう 御所人形		2軀	大正時代～昭和時代	彦根城博物館（山田米子氏寄贈資料）
28		からこあそびず 唐子遊図	かのうなかのぶ 狩野中信筆	6曲1双の内1隻	江戸時代後期	個人

## 作品解説

### 1 天児および白絵箱 1式 (作品リストNO. 1)

天児：高 44.1cm

白絵箱：高 46.2cm 幅 42.1cm 奥 22.9cm

江戸時代後期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家13代当主直弼なおすけの四女、真千代まちよ (1845～1904) の誕生の際に準備された天児とその収納箱。

天児は、出産の前に、新たに生まれる子どもに降りかかる災わざわいを除くために作られた人形です。子どもが幼い頃には、新しい着物はまず天児に着せ、災いを人形に移してから子に着せたといえます。

収納箱は、素地 (白木) の上に白い顔料で松竹梅と鶴、亀を描いたものです。このように白木に白で、あるいは白地に白で文様を描いたものを白絵しろえと呼びます。古来、日本には、白を清浄な色とする考えがあったとされ、出産の際には、産屋うぶやが白絵の調度ととので調べられました。江戸時代には、天児などの出産に関わる道具の収納箱にも白絵が表わされるようになります。これらの箱は、新たな命に関わる道具を守る役割があったとも指摘されています。

新たに生まれる子どものために作られた天児と、それを包み守る白絵の箱には、我が子の成長に対する切なる願いが込められているといえるでしょう。



(天児)



(白絵の収納箱)

### 2 朱漆塗仏腰取三枚胴具足 1領 (作品リストNO. 9)

滋賀県指定有形文化財

胴高29.2cm

江戸時代前期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家2代直孝なおたかの世子である直滋なおしげ (1612～61) の初召はつめしと伝える甲冑かっちゅう。現存する井伊家伝来の甲冑の中で、唯一の子どもの甲冑です。武家の男子は、成長儀礼の一つとして、初めて甲冑を着用する鎧着初よろいきぞめ (具足始ぐそくはじめ) を行いました。この具足も、その際に調べられたものかと思われます。

「井伊の赤備え」と称される井伊家歴代当主の甲冑は、兜かぶとや胴、小具足に至るまでを朱漆塗としますが、この甲冑は、兜に銀箔を貼り、兜の形も頭頂が尖った椎形兜しいなりかぶととする点などに、藩主の具足との違いがあります。草摺くさずりや袖などの茶色の威糸おどしいとは、本来、紫色であったことが分かっており、漆の朱色に、兜の銀、威糸の紫と白、そして籠手や佩楯に使われている萌葱地の裂もえぎきれが映え、今以上に色鮮やかで若々しい趣であったと想像されます。



3 布袋図 徳川家綱筆 1枚 (作品リストNO.18)

重要文化財

縦 70.1cm 横 30.5cm

江戸時代 慶安2年(1649)

当館蔵 (彦根藩井伊家文書)

4代将軍徳川家綱 (1641~1680) が、9歳の時に描いた布袋図。家綱は、幼少から絵を描くことを好み、その作品は近臣らに下賜されることがありました。家綱の元服式において初めて冠を付ける加冠役をつとめるなど、その成長を見守り続けた井伊家2代直孝は、本図を含め4点を拝領しています。

本図は、父である将軍家光の御前で揮毫したものです。本図の2年前、7歳の時に描いた雛図と比べると、墨の濃淡を使い分けて描かれており、家綱が作画を学び、成長している様子がうかがえます。



4 能面 童子 児玉満昌作 1面 (作品リストNO.21)

面長 20.5cm 面幅 13.6cm 面奥 6.9cm

江戸時代中期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

能「枕慈童 (観世流では「菊慈童」)」に用いる面。「枕慈童」は、中国を舞台にした演目です。不老不死の妙薬である菊水を飲んで、少年の姿のまま700歳の命を保つ慈童という仙人が、山中を訪れた皇帝の勅旨に薬の水を勧め、舞を舞い、皇帝の長寿を祈念し祝福するという内容です。

童子は、この永遠の若さを保つ慈童の役で使います。やや面長の豊かな頬、繊細な額の毛描、三日月型の眉、眦の上がった涼しい目元が特徴です。わずかな微笑を浮かべており、単なる美少年というだけではない神秘性が感じられます。

作者の児玉満昌 (?~1704) は、面打を家業とする世襲面打家の内、京都で活躍した児玉家の初代。



5 唐子遊図 狩野中信筆 6曲1双の内1隻 (作品リストNO. 28)

縦 89.7cm 横 263.0cm

江戸時代後期

個人蔵

12人の唐子<sup>からこ</sup>が遊び戯れるようすを描いた屏風。左隻には目隠し鬼をして遊ぶ様子が表されています。絵画にくわえ様々な工芸品に、このような多くの唐子を表す作例を見いだすことができます。その画題の源は、100人もの唐子を描いて多産や子孫繁栄を願うという、中国の吉祥画題「百子図<sup>ひやくしず</sup>」と考えられます。本作には、唐子とともに、松竹梅や富貴をあらわす牡丹も描かれており、吉祥づくしの画となっています。

作者の狩野中信<sup>かのうなかのぶ</sup> (1811~71) は、江戸幕府の御用絵師をつとめた狩野派の家のひとつ、浜町<sup>はまちょう</sup>狩野家の8代当主です。



(左隻部分)